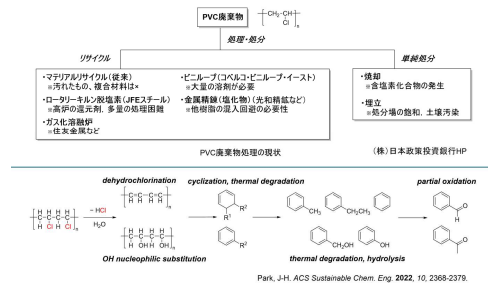
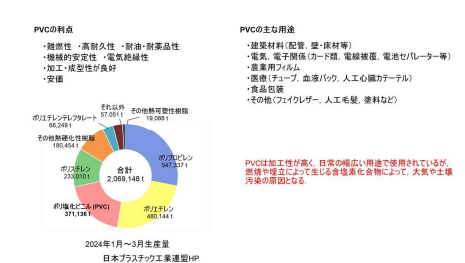


Effect of co-Solvents on the Dechlorination Reaction of Polyvinyl Chloride under Hydrothermal Conditions

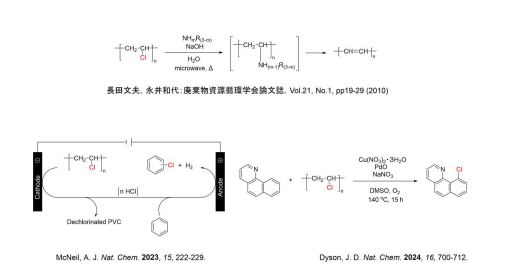
OSatomi Hosokawa¹, Douglas Hungwe¹, Kenji Sugiyama², Yuki Yamasaki³
1Tama Research and Development Center, Hosei University, 2Faculty of Bioscience
and Applied Chemistry, 3Faculty of Economics, Hosei University
4342, Aihara-cho, Machida-shi, Tokyo, 194-0298, Japan
satomi.hosokawa.28@hosei.ac.jp



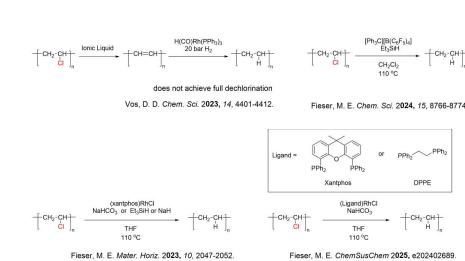
PVCの用途, 生産量とリサイクルの現状



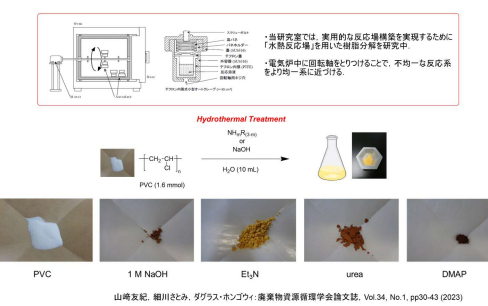
PVCの「ケミカルリサイクル」取り組み例1



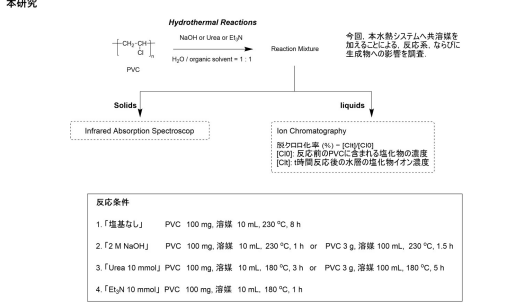
PVCの「ケミカルリサイクル」取り組み例2



当研究室



本研究



塩基なしの反応 (230 °C, 8 h)

共溶媒	脱塩素化率 (%)	SP値 (PVC 9.3)
なし (水のみ)	69	23.4
シクロヘキサノン	91	10*
4-メチル-2-ペンタノン	100	
PhOH (4.28 g/50 mL)	96	14.5
BnOH	50	1.5
IPA	88	11.5
エチレングリコール	55	14.2
ジグリム	27	
トルエン	30	8.8
ヘキサン	71	7.3
DMF	80	12

* アセトンのSP値

NaOHを用いた反応 (230 °C, 1 h)

共溶媒	脱塩素化率 (%)		SP 値 (PVC 9.3)
	NaOHあり	NaOH無し	
なし (水のみ)	18	4	23.4
シクロヘキサノン	99	13	10 ⁽²⁾
4-メチル-2-ペンタノン	94	12	
PhOH	57	17	14.5
BnOH	90	8	1.5
MeOH	100	9	11.5
MeOH ⁽¹⁾	100		
エチレングリコール	93	8	14.2
ジグリム	63	14	
トルエン	2	3	8.8
ヘキサン	8	4	7.3
DMF	100	85	12
DMF ¹⁾	100		

1) PVC 3 g 2) アセトンのSP値

Ureaを用いた反応 (180 °C, 3 h)

共溶媒	脱塩素化率 (%)		SP値 (PVC 9.3)
	尿素あり	尿素無し	
なし (水のみ)	57	2	23.4
シクロヘキサノン	80	2	10 ⁽²⁾
4-メチル-2-ペンタノン	48	3	
PhOH	100	1	14.5
BnOH	84	1	1.5
BnOH ⁽¹⁾	99		
IPA	54	1	11.5
エチレングリコール	55	<1	14.2
ジグリム	73	5	
トルエン	1	1	8.8
ヘキサン	49	3	7.3
DMF	65	57	12

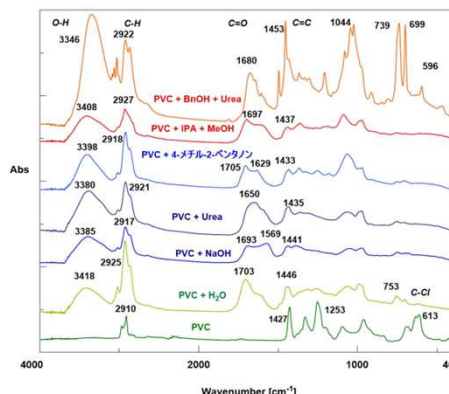
1) PVC 3 g 2) アセトンのSP値

Et₃Nを用いた反応 (180 °C, 1 h)

	脱塩素化率 (%)		
共溶媒	Et ₃ Nあり	Et ₃ N無し	SP値 (PVC 9.3)
なし (水のみ)	59	<1	23.4
シクロヘキサノン	15	2	10 ¹⁾
4-メチル-2-ペンタノン	9	5	
PhOH	50	3	14.5
BnOH	40	<1	1.5
IPA	26	6	11.5
エチレングリコール	53	<1	14.2
ジグリム	19	<1	
トルエン	3	<1	8.8
ヘキサン	25	<1	7.3
DMF	100	6	12

※アセトンのSP値

固体生成物のATRスペクトル



結論, 謝辞

NaOH, 尿素, Et₃N存在下でのPVCの水熱脱塩素化反応で、共溶媒の影響を調査した。

塩基が存在しないとき、溶媒のSP値が脱塩素化速度に影響する傾向を示し、ケトン系溶媒やフェノールが効果的であった。

塩基存在下では、溶媒とPVCだけでなく、溶媒と塩基の相互作用も影響した。

本研究は、JST ERATO JPMJER2103の支援を受けたものです。
ここに記して謝意を表します。